

日付:2016年4月10日／聖書:ヨハネの黙示録4:1～11

説教:「見よ、開かれた門が天にあった」

この黙示録の著者ヨハネは、国家権力の弾圧で捕らえられ、パトモス島に流刑の身として牢獄の中にいた。どれ程恐ろしく、悲しく、失望の中にあったことか。しかしヨハネは、その牢獄の中で、開かれた門が天にあるのを見る。その天で行われている礼拝を見る。このことは、当時の教会の人々が国家の弾圧により、苦しみを覚え、神様を遠くに感じていたこと、闇の深さを実感していたこと。地上では、賛美の歌声が聞こえないような状況があったこと。しかしヨハネは、「見よ、開かれた門が天にあった」と教える。教会において、イエス・キリストは、死んでいるのでも、不在なのでもない。また、隠れているのでも、沈黙しているのでもない。天の門は開かれている。そのことを、教会は勇気をもって証しする必要がある。

先週の役員会で、一つの抗議文を発信することを決めた。先月13日(主日)に起きた米兵による女性への性暴力事件に抗議する文章である。

「米兵による女性への性暴力事件に強く抗議します！」3月13日、またしても米兵による女性への人権を蹂躪する性暴力事件が起きました。女性に対するこのような行為は、肉体的、精神的苦痛を与えるだけでなく、人間としての尊厳を蹂躪する極めて悪質な犯罪であることは言うまでもありません。沖縄にとってこの事件の意味することをあなた方はどれだけ感じ取っておられますか？ 一人の女性の人権蹂躪に留まるものではなく、沖縄の歴史にまた新たな差別の傷痕を刻むことになるのです。…去る3月21日、名護市辺野古のキャンプ・シュワブ前で開かれた米兵による女性暴行事件に抗議する「緊急県民抗議集会」には、2500人が集まりました。目標の千人を大きく上回る人々が駆け付けたのです。事件に対する沖縄の人々の怒りが大きいことを示すものであり、日米両政府はこの現状を深刻に受け止めるべきです。性的暴行という犯罪は相手の気持ちを踏みにじり一方的な力でねじ伏せて陵辱する非道行為です。今回の集会では「すべての米軍は沖縄から撤退すること」を求める決議が採択されました。新基地だけでなく全基地撤去を求めたのです。これ以上、軍事基地による人権蹂躪を繰り返すことは決して許されないという沖縄の憤りがそこにあるのです。

教会は、「正義」を行うこと、キリストを発信することに躊躇してはいけなく、何故なら教会は、イエス・キリストが、死んでいるのでも、不在なのでもないから。また、隠れているのでも、沈黙しているのでもないから。「見よ、開かれた門が天にあった」とヨハネは教える。天とこの世は繋がっていることを、聖書は教えている。そのことに喜びを覚え、勇気

を覚えたい。天の門は開かれているのだ。(神谷)